



図-8 自然電位と分極抵抗の分布

参考文献

- 1) 例えば, 田村 博, 永山 勝, 下澤和幸; 腐食モニタリング測定値に関する一考察, コンクリート工学年次論文報告集, 1990,
- 2) 岸谷考一ら編, 大即信明ら著; コンクリート構造物の耐久性シリーズ塩害 (I), 技報堂出版, 1986.
- 3) 宮川豊章; コンクリート中の鋼材の電位測定方法の一試案, 海洋コンクリート構造物の防食指針 (案), (社) 日本コンクリート工学協会, 1983.
- 4) 小尾 稔, 界 孝司; 補修・補強を施した PC 橋の劣化および耐荷力, 土木学会第45回年次学術講演会, 1990.

サ □ ン

ワープロ機能

わが研究室には大小合わせて3台のワープロがある。報告書, 論文, 予算調書, ほとんどがワープロで作成されている。便利なものだ。削除も挿入も思いのまま。文章のコピーも移動も簡単。だが, 使い慣れてくるにつれ, 奇妙なことに気が付いた。

従来, 文章を書くときはどうしたか。まず全体構想を頭に描く。次に各章・各節で述べることを頭で整理し, 一つ一つの文章を十分頭で練ってから, これぞとおもう文章ができて初めてペンを握る。つまり, 何度も消したり書いたり煩わしいから, なるべく完成に近い形にして書き出したものだ。ところが, ワープロを使うようになってからは, 頭に浮かんだことをなんでもかんでも即座に打ち出し, 前後の脈絡を無視してとにかくキーを叩き続ける。一応思いつくだけの文章を吐き出したら, 今度は面画とにらめっこしながら, アッチの文をコッチに移し, コッチをアッチに持っていく。形容詞, 副詞を挿入する。やがて満足した文章が出来上がる。

頭で勝負していたときには, 考えたことを記憶させるスペースが広大で, かつ何層にもなっていて, それが有機的に組織化されていたような気がする。ワープロを使うようになってからは, 記憶スペースがどんどん狭まり, 薄べらになって, いわば単細胞化していくようだ。記憶力が悪くなったのは年のせいだけではないんじゃないか。

たまにやペンを握ることもある。へたな字が増々へたになっていて, 自分でも読めないほどだ。おまけに, 少しやっこしい漢字は全部カタカナで済ませてしまう。なに, キーを叩けば漢字に変わるんだから。字の書順なんて覚える必要はない。キーの配列を覚えればいい。漢字を書けなくとも読めればいい。昔は書けなかった鸚鵡, 蠟燭, 鎧兜, 蜘蛛, …。今は何だって漢字にできる。漢字にできないものだって漢字にできる。ワープロさえ使えば。

(記 能登繁幸)